アーメダバード宣言（2007）：行動への呼びかけ

暮らしのための教育：教育を通した暮らし

（2007 年 11 月 28 日採択）

翻訳：日本ホリスティック教育協会運営委員/聖心女子大学准教授
永田佳之

私たちは次のような世界をここに想い描きます。それは、私たちの労働と生活のあり方が地球の生きとし生けるものすべてに至福（well-being）をもたらすような世界です。人間のライフスタイルが生態系の保全や経済的・社会的正義、持続可能な暮らしとありとあらゆる命に対する敬意に沿うようになるのは、教育を通してであると私たちは信じます。教育により私たちは次のようなことを学びます。すなわち、コンフリクトを予防し、解決すること、文化的な多様性を尊重するようになること、思いやりのある社会を創ること、そして平和裡に暮らすことです。昔ながらのローカルで伝統的な生活様式から学ぶことにより、地球や生命が維持されているシステムを慈しみ、敬意を表するようになりますし、こうした知恵を急速に変容していく世界に適用することもできるのです。そして社会全体にとっての善に配慮した上で、個人や共同体、国家、さらにはグローバルな次元において選択をできるようになるのです。すべての者が誇りをもつことができるような可能性のある未来は日常の行動によって形づくられると、若者を含めた個人や市民社会、政府、ビジネス界、融資のパートナー、その他の組織が認識するようになるのです。

人間の生産と消費はこれまでにも増して止め処を知りません。そのために、地球上の生命を維持しているシステムは急速にむしばまれ、生きとし生けるものの命が輝く可能性も消失しています。ある人々にとっては許容範囲であると当然視されている生活の質も、他の人々にとっては権利の剥奪に等しいことも珍しくありません。裕福なものと貧しいものとの格差は開く一方です。気象上の異変、生物多様性の喪失、健康を脅かす危機の増大、そして貧困。これらが示唆するのは、持続不可能な開発モデルとライフスタイルです。持続可能な未来に向けたオルタナティブなモデルとビジョンは確かに存在し、それらを現実のものとする迅速な行動が求められています。人権やジェンダーの公正、社会正義、健康的な環境はグローバルなレベルで緊急に実現すべき責務として認められる必要があります。「持続可能な開発のための教育」はこうした変容をもたらすために極めて重要です。

マハトマ・ガンディーはこう語りました。「私の人生そのものを私のメッセ―ジとしよう」。我々がここに掲げた例はいずれも重要です。持続可能な生活のあり方を探求するに際して実質的な中身と活力をもたらすのは自分たちの行動を通してなのです。創造性と想像力をもって、私たちは自らの生活の依拠する価値観、また選択と行動のもとである価値観を考え直し、変えることが必要です。

再考が求められるのは、自分たちの手段と方法とアプローチであり、政治と経済であり、関係性とパートナーシップであり、教育の真の基盤と目的であり、私たちの生活と教育がどう関わっているのかということです。ものごとを選択する際に拠り所にし、鼓舞されるのは、これまで私たちが見てきた多くの成果、つまり「地球憲章」や「ミレニアム開発目標」を含めた成果です。

「環境教育」の歩みを経て、支持され、擁護されるようになったのは「持続可能な開発のための教育」です。このような教育のプロセスは現実に対して適切であり、呼応するものであり、責任をもてるものでなくてはなりません。これまでにも増して確実性と信頼を得るために、研究は奨励されるべきであり、さらなる効果的な学習方法と知識の共有を明らかにしていく必要があります。

私たちは誰もが学習者であり、また教師でもあります。「持続可能な開発のための教育」が促すのは、私たちの教育に対する見方の変化です。つまり、機械的な伝達手段としての教育から生涯にわたるホスリティックで包括的なプロセスとしての教育への変化です。パートナーシップを打ち立て、多様な経験と共有すべき知見を分かち合い、持続可能性のビジョンをよりよいものにしていくことを、私たちは誓います。

ネットワークの力が増大する今日の世界において、私たちは自らの責任に応じ、この会議の勧告内容を推進していくことをここに誓います。求められるのは、国連システムと世界各国の政府が「環境教育」を支援し、「持続可能な開発のための教育」に関する適切な政策の枠組みを策定し、実行に移すことに全力を尽くすことです。

謙虚さと包容力と誠実さと人間性に対する強い感性とをもって持続可能性の原理を追求していく我々の行動に、すべての人々が参加することを切に求めます。希望の精神と熱意と行動に向けた努力をもって私たちはアーメダバードから前進していきます。